

領域目標

- (A) 地域やコミュニティの現場の現状と問題を科学的根拠に基づき分析・把握・予測、実践的研究により、問題解決に資する新しい成果を創出
- (B) 高齢社会に関わる研究開発の新しい手法、科学的評価のための指標等を、学際的・職際的知見・手法に基づき体系化、提示
- (C) 研究開発拠点の構築、関与者間のネットワーク形成、継続的な取り組みや他地域への展開の原動力創出。多世代の理解促進

目指す社会像



- ① 自立期間(健康寿命)を延長し、アクティブシニアが活躍できる場を創る
- ② 住み慣れたところで日常生活の継続を支える生活環境を整備する

1

- 背景**
- ・ 急速な高齢化(高齢者の高齢化、都市部の高齢化等)
 - ・ 高齢社会の課題が生じる生活の場
 - ・ 現状を正確に把握し、問題点を洗い出し、対策の検討に向けた研究開発を実施することが急務

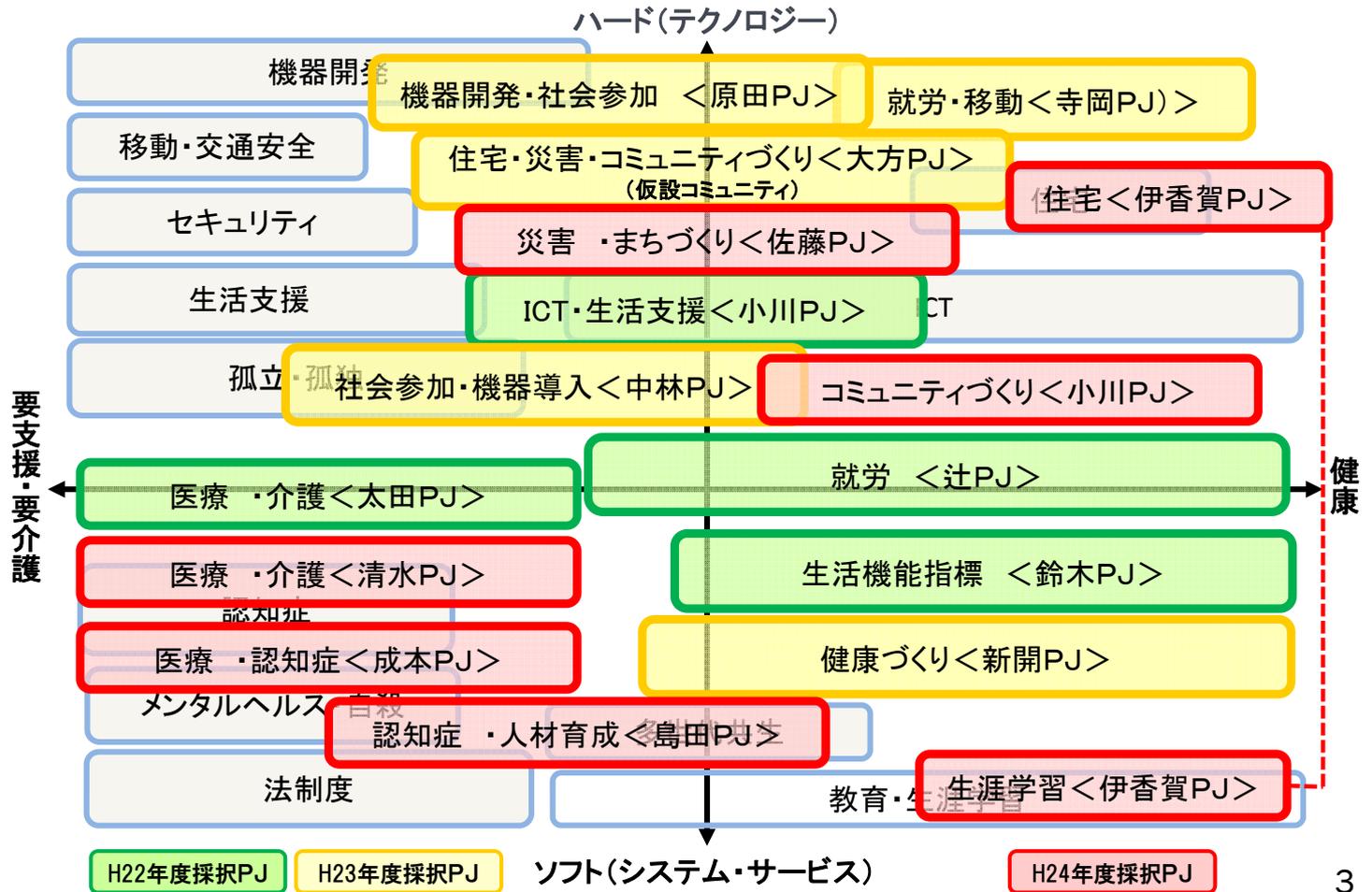
■ アプローチ

人文・社会科学から自然科学まで学際的な取り組み
マルチステークホルダーによる協働
(コミュニティにおけるアクションリサーチ、産官学民協働)

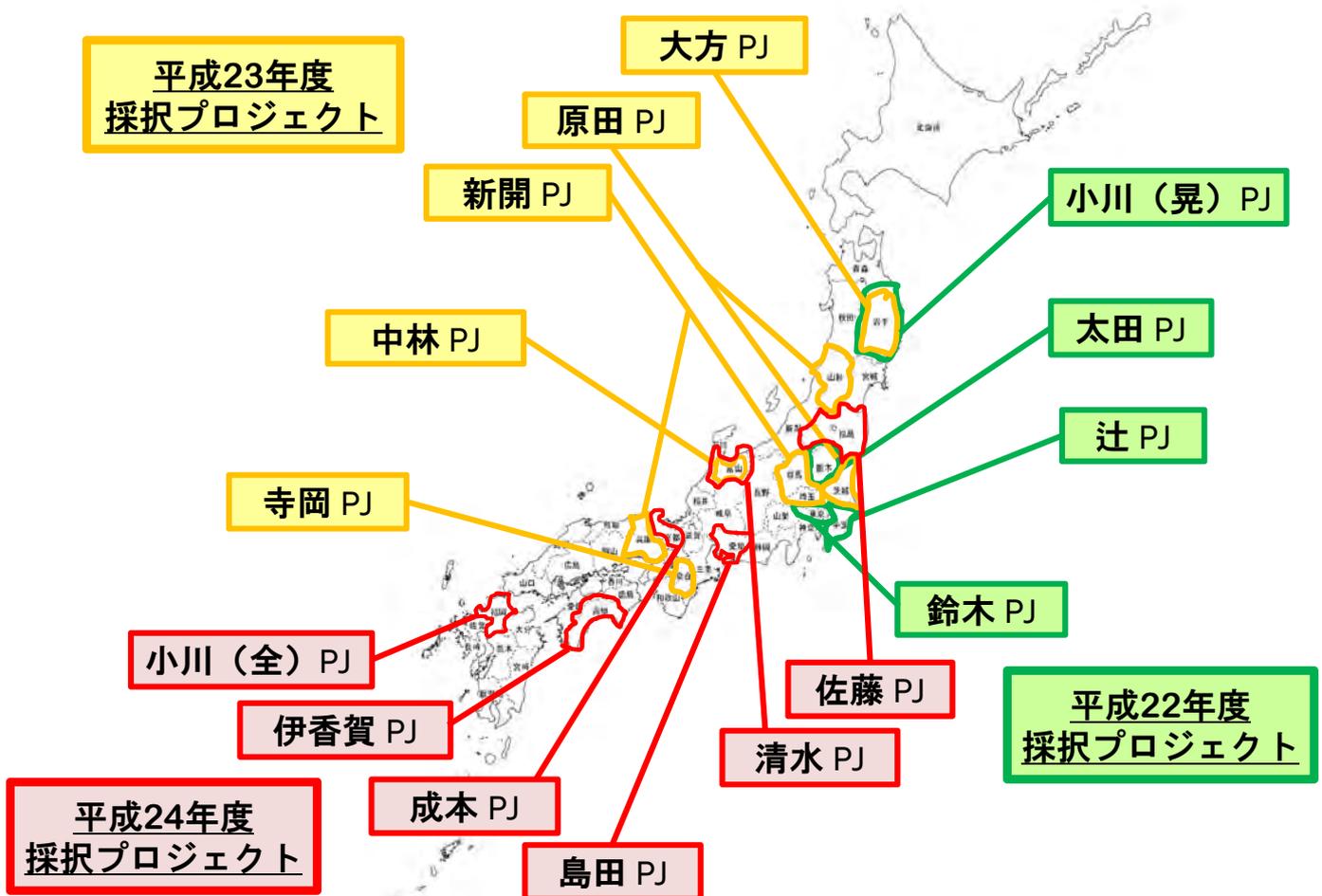


2

採択プロジェクト 分野概略図



採択プロジェクト 実施コミュニティ一覧



領域マネジメント

- 対話と協働を重視したハンズオン型マネジメント
 - 産官学と多様な分野によるマネジメント体制
 - 領域会議、プロジェクトとの意見交換会の実施

- サイトビジット

- 実施地域を訪問
- 意見交換、議論、講演等
- 活動に参加、ともに体験



- 領域関係者による領域合宿

- マネジメント・プロジェクトの交流
- 多角的な議論



※ グループワークの様子

領域内委員会① アクションリサーチ委員会

目的: 領域総括・領域アドバイザーおよびプロジェクトメンバーが協働し、コミュニティにおけるアクションリサーチを科学的な手法として確立する

- 入門書の出版 (東京大学出版会より)

「高齢社会のアクションリサーチ

- 「新たなコミュニティ創りをめざして」
- 多様な実例を交えながら、
- アクションリサーチのプロセスに沿って記載



- 成果とりまとめ集中会議

- 研究開発のプロセス、コミュニティの変化、
- 成果の示し方について、
- プロジェクトと議論



